

2011年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2011年7月31日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

東日本大震災復興支援活動報告

被災支援活動への ご協力に感謝

埼玉地区委員長 土橋 誠

地区内の教会・伝道所の皆さまに感謝いたします。

三月十一日の東日本大震災後、関東教区常任常置委員会が三月二十二日に開かれ、そこで中古衣料の物資支援が協議され、埼玉地区でそれを担ってほしいとの連絡がありました。早速地区委員の皆さんにメールでこの件につき知らせ、二十三日には各教会・伝道所へ依頼のファックスをいたしました。

各教会・伝道所ともこの依頼に真剣に取り組んで下さり、大宮教会一階集会所が埋まるほどに中古衣料が集まりました。これだけの量の中古衣料が集まったからこそ、四月十二日～十四日にかけての大船渡教会でのミニバザー、五月三十日～六月一日の石巻市でのミニバザーに良い品を持って行くことが出来たとと言えます。

被災支援には「時」の問題があります。必要な時に必要な物資でなければ、意味を失うということがあります。被災一ヵ月後に中古衣料をお届けし、大船渡教会の近くの避難所に避難されている方々にお餅八白、

焼肉三十キロ、焼きそば二百三十人分、そして綿あめを提供できたことは喜ばれたと言えらると思います。先日、大船渡教会の村谷牧師と電話でお話した時、「今でも、あの時の焼肉や焼きそば、お餅は美味しかったねえ」という言葉を聞くことがある」と話されていきました。

また、五月三十日～六月一日の石巻市での衣料ミニバザーは、被災して二ヶ月半が経っていたので衣料品が現地の被災者の要望に添うことが出来るかと心配でしたが、四か所でのミニバザーのどこでも喜ばれ、沢山の方々が自分に合う衣料を求めておられました(このときは栃木地区の四條町教会で集めた衣料も持って行きましたので、それも良かったようです)。そしてまたこの時は、四か所のミニバザーの内の一つの開催場所であった石巻栄光教会で小鮎牧師ご夫妻から大震災直後のお話や、現状についてのお話などをうかがうことが出来、埼玉から行った者たちにとっても恵まれた時でした。

これらの活動を行うことが出来たのは、被災地に行つて下さった方々はもろろんですが、背後にあって中古衣料を集めて下さった教会・伝道所の皆さま、収集された中古衣料の内すぐに被災地に運べる物と残す物

とを仕分けして下さった皆さま、そして韓国から送られてきた三万本の水を被災地のどこに運ぶかで電話連絡をしてくださり、また、何度も直接現地に行つて水の積み下ろしの労力を提供して下さった方々の熱い祈りと思いがあつたことをご報告いたし、心から感謝いたします。

東日本大震災被災支援は始まったばかりです。関東教区では被災支援委員会を立ち上げ、疋田前議長が委員長としてその推進にあたり、総会後は秋山議長がその任に就かれました。これからも埼玉地区の教会・伝道所の皆さまにご協力をお願いすることが沢山出てくるかと存じます。このことを祈りの業とし、私たちの出来るところを行つていきたいと思つていきます。

地区三役の教会による 茨城地区被災支援活動報告

地区書記 栗原 清

三月十一日午後、地区総会会場教会としての準備をしている時、ただごとではない強い揺れを感じた。テレビは、リアルタイムで津波による被災状況を伝えていた。甚大な被害を直ぐに予測出来、なにがしかの緊急支援が必要になるだろう、と連絡を待つ。十三日主日礼拝の朝、土橋地区委員長より緊急連絡があり、「教区からの要請を受けて、茨城地区を



東日本大震災と余震、そして福島

原発事故発生という事態の中で、西那須野にあるアジア農村指導者養成学校は、二十名のアジア・アフリカからの研修生を迎えて、五月半ば、三十九回目の入学式を行ない、今年度のプログラムが開始された。

地震発生後、在日外国人(企業への研修生や留学生など)の多くの人たちが、早々に日本を離れて帰国する中で、日本への渡航を案ずる家族を説得し、研修生達は四月末に次々と来日した。

入学式での研修生代表の挨拶の中に『このような時にこそ、この日本で学び、日本人の痛み、悲しみ、苦しみを少しでも分かち合いたい...』との言葉に、胸が熱くなった。環境、文化の違いを超えて、苦しみを分かち合い共に歩もうとする方々の思いと姿勢に触れ、私は、これ程にアジアやアフリカの人々の事を思っているだろうか?、又、同時に、今、被災地の事をどれ程に身近な事としてしているか?と自問...。《汝の隣り人を愛せよ》とのみ言葉に聴従する一步の重みを感じる。

緊急支援して欲しい」と、このと。地区三役の電話のやりとりで、断水、停電、食料不足等の生活インフラ完全停止に対する緊急支援という事で、ミネラルウォーターと食料、十三日の主日礼拝で献げられた献金(三三教会で約二十万円)を携えて、即時日立教会へ向けて輸送する事になった。

即時実行という事もあり地区全体で行う事が困難と判断し、地区三役の教会(飯能、武蔵豊岡、埼玉新生)が協力する事とし、十四時に土橋委員長と合流、埼玉新生教会へ向かう。埼玉新生教会では、幼稚園の備蓄食糧を全て放出して下さった事もあり、軽トラックの荷台山積み分と土橋委員長の乗用車後席満載分の支援物資を搭載した。高速道路が通行止めなので、全て一般道にて往復四〇〇kmの旅程となる。燃料供給不足の問題もあり無給油だと、もし



十六時過ぎに中村眞副委員長の力強い祈りに見送られて日立教会に向けて出発した。茨城に近づくほど停電の影響で周囲は暗くなる。道路が渋滞しているのは、殆どがガソリンスタンドで給油するための車列によるものだ。北へ進むほど道路にびび割れ、橋脚のずれや、外壁や塀が崩れているのを見かけるようになる。信号も停電により機能停止しているの

で走行に注意を必要とした。休憩を取りながらの到着は十時半頃だったので、約七時間ほど掛かった。日立教会では、島田進先生ご夫妻と教会役員の方に迎えられた。支援物資を引き渡し、しばし島田先生や周囲の被災状況等を伺い、土橋委員長の祈りをもって十一時半頃に日立へ出発した。心配していた燃料は、わずかに残して埼玉新生教会に帰着したのは翌朝四時頃、自宅へ到着したのが午前五時少し前だった。

百箱程度にまとめ、もちつきなどのイベントと共に大船渡教会で無料ミニバザーをしました。四月十三日は天気も良く、教会前の駐車場に衣類を男女別、世代別に並べているうちに次々と現地の方々がおいでになりました。「どれでも自由にお持ちください」というと「何枚でもいいの?」と言われても「いくらでも」とこちらが言っても、よく選んで控えめに袋に入れ、ていねいにお礼を言われる方が少なくありませんでした。春に向かって活動しやすいアウトウエアや若向き

大船渡で衣類を 提供しました

小川教会 長尾 愛子

埼玉地区では、各教会に呼び掛けて集めた衣類を段ボール

の下着などが喜ばれました。衣類を介して具体的に何が必要ですか、といった会話をきっかけに少しお話もできました。また不自由も多く、プライバシーの保てない状況に耐え、それでもお互いを気遣っておられる様子、生き抜こうとする人々の命のパワーに触れ、本当に感銘を受けました。

今回のボランティアは実質たった一日で一か所です。膨大な被災状況と復興までの道のりを考えると自分のしたことなど大海の一滴ですらないことを痛感します。今回の無料バザーにしても多くの方のご協

力がありません。大船渡教会に御迷いと心配もしています。しかし、教会にしかできない、より深いケアの可能性、あるいは必要性も感じました。今後に関心を持ち続け、祈りをあつくし、献げていきたいと思えます。

大船渡教会でもちつき

大宮教会 西谷美和子

埼玉地区から大船渡教会へボランティアに行く一週間前に、関東教区四役が東北・奥羽教区の現状を問安しています。問安した一人正田國磨呂牧師から、被災された方々が出来立の温かい物が食べたいと望んでいるとか、野菜が不足している、肉が食べたいという声があった、ということ聞きまし



た。そこで、被災された方々にアツアツの雑煮や甘いあんこ餅やきな粉餅を召し上がりたてだこう、ということになりました。大宮教会では、毎年バザーで餅つきをしています。が、多くの方々に喜ばれており、中心となって奉仕してくださっているのが本田彰兄です。今回もまず本田兄が率先して計画を立て、材料や道具の準備はすべて一人でしてくださいました。スタッフはほかに三人。餅つき班として、同じ大宮教会員の佐治範子姉と広神信子姉、そして私が補佐として加わりました。出発前日、二トントラックに杵(きね)と臼(うす)を積み、当日、ワゴン車に野菜や鶏肉等を積み、出発しました。午後二時半に大船渡教会に着いて、まず翌日の仕込みをしましたが、二百五十人分の材料なので、結構時間がかかりました。あつという間に夕飯の支度をする時間になったほどです。

当日は、午前七時半頃から三十四kgのもち米を蒸してはつき、蒸してはつきで、八白分も餅をつきました。同行した先生方も手伝ってくださいましたし、無料バザーに来た方も餅つき体験をされ、楽しまれました。

た。その間、広神姉と私はゴボウやシイタケなどの野菜と鶏肉を炒め、水、酒、醤油等を加えて、雑煮を作り、一段落したところで、あんこときな粉に取りかかりました。雑煮は一人分を小ぶりの丼一杯にし、きな粉とあんこ餅はそれぞれ大きめのおにぎりサイズで三個一パックにしました。

午前九時半、無料バザー開始！となっていました。実際は、うれしい悲鳴と言いましようか、一時間も前にお客さまが来場してくださったのです。「誰も来なかったらどうしようか。一人でも多くの方が来てくださり、喜んでくださいますように」—前の晩の祈りがかなったのです。お鍋の前にすぐに行列ができ、雑煮をよそった先からどんどん持って行っていただきました。なかには、



きな粉餅がお好きとかで一人分を八人分を持ち帰った方や、つきた

あ。大変だったけれど、やって良かった」と感想を。広神姉は、「他教会の姉妹がパック詰めを手伝ってくれたり、『みんなおもしろいと言ってますよ』と教えてくださったので、様子がわかり、ありがたかったです。でも、その方も実は家を津波で失っていたの」。また、『こ

の餅が好きだと言うので、パックに餅だけ詰めて差し上げたところ、大喜びされ、私たちも幸せな気分になりました。無料バザーは、昼食をはさみ、午後にも再開。午前の評判を聞きつけて来られたり、同じ方がまた来てくださったり、と餅つき班は午前にも増してにぎわいました。しかし、半端じやない強風が突如として吹き出し、かなり難儀しました。現地の方によると、四〜五月にかけて毎年強風が吹くそうです。あたふたしている私たちを見かねて！手伝ってくださいの方も現れました。パックに輪ゴムをかけてくださったり、注文を聞いてくださったたり、助けられました。気がつけば、差し上げる雑煮もあんこもきな粉もなくなりました。本田兄は「飾り気のない表情に感動したな



んなふうには皆で炊き出ししたり、楽しく過ごせたらいい」と、黙々と手伝ってくださいました男性もいました。被災されたサービスされるばかりだったでしょうから、サービスする側になって、少し癒やされたのかもしれない。復興への道のりは長く険しいと思います。その時々で被災された方、被災地のニーズは変わっています。祈

り、神様にみ旨を聞きつつ、成すべきことを成していけたら、と願います。今回、ボランティアが実現できたもの、大船渡教会のご協力があつたからこそ。感謝しつつ、神様のお守りが豊かにありますように祈ります。アーメン。

「日本国民の皆さんを応援します」とのメッセージと共に、韓国救世軍を中心としたプロテストント系宣教団より、一・八ℓの飲料水四万本、五〇〇ℓの飲料水二万本の寄贈を受けました。埼玉地区が関東教区より要請を受け、五〇〇ℓの飲料水一万本を、新品下着とともに大船渡市の地域センターに届けました。

その後三月十九日から三日間と二十五日から二日間の日程で、福島県いわき市に一・八ℓを二万本、田村郡三春町に一・八ℓを二万本、埼玉県草加市に五〇〇ℓを一万本届けました。当初、相馬市にも配送予定でしたが、大型トレーラーの進入が困難であったため、配送先を三春町に急遽変更して一

万本を追加配送し、同町を集積基地として、相馬市や会津若松市へ移送しました。また、草加市は原発事故による避難者を受け入れています。配給物資が不足している状況でした。

草加市を除き、届けられた飲料水のほとんどは、幼稚園や保育所、乳幼児施設、産婦人科医院などに分配されています。いわき市内の各幼稚園では、水道水の使用を控え、飲料用の水を保護者に購入させて園児を登園させています。また、手洗いや保育所での給食調理、粉ミルクの調乳にもペットボトルの水が使用されています。「食の安全」を確保し、安全な飲食物を子ども達に与えたいという教育関係者や保護者の切実な想いが感じられます。二転三転した配送先も、最後に一番必要とされている子ども達に届けられたことに神の導きを感じざるを得ません。

韓国から関東教区、そして子ども達へ

草加教会 谷脇 正紀

必要とするところに、必要とされている支援物資を行き届かせる働きは、公共団体経由ではなく、現状を正確に把握している民間の支援グループとの連携が不可欠であり、今後の物資支援の重要な要素だと感じました。

新地区委員長挨拶

土橋 誠



三月十一日の東日本大震災のために埼玉地区総会が一カ月遅くなりましたが、埼玉地区の教会・伝道所の皆様にご協力を頂き、無事に終えることが出来ましたことに感謝いたします。そして、あらためて地区委員長に選任され、心引き締まる思いとされました。

この「小さな器」を皆さまが用いて下さることに感謝です。どうぞよろしくお願ひします。昨年度一年間地区委員長の職務を担い、分かったことは、地区委員長・地区委員は地区の各組織が充分にその職務をなすことが出来るように仕えることだということです。そのように考えても、実際は難しいかもしれませんが、そうした思いで地区委員長の責務を果たしていきたいと願っています。

今年度は、年度当初から東日本大震災被災者のための支援活動として中古衣料の収集にご協力を頂きました。四月十二日・十四日にかけて岩手県大船渡教会でミニバザーを開くことが出来たのも、五月三十一日・六月二日にかけて埼玉地区

災害対応委員会と地区委員会とで、中古衣料を再度被災者にお分ちできたのも、地区の教会・伝道所の皆さまの被災者への熱い思いがあったからです。そしてまた、七月には教団の部落解放センターの関東教区キャラバンが埼玉地区を訪問することになっていきます。このことへのご協力をも地区の教会・伝道所にお願ひしなければなりません。新年度の歩みが始まりました。互いに仕えあい、支えあうことによつて、主にある共同体としての埼玉地区の新しい歩みを始めましょう。

新地区委員紹介

地区委員に選出されて

埼玉新生教会 中村 眞



一期二年の地区委員の役を終えたところで、後進に道を譲るつもりでおりましたのに、思いも掛けない選挙結果で再び地区委員に選出されることとなりました。

多くの課題を抱える地区の

働きの中で、引き続きホームページ委員会と地区通信委員会に所属することになりました。微力ではありますが、与えられた課題を担ってまいりたいと思っています。

二期目となる二年間も主にやささげし、「委員長をお支えする」と挨拶しました思いを保つて、他の地区委員のみなさんと協力して働いてまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

主の栄光が顕されるために

熊谷教会 布村 伸一



地区総会において地区委員に選出されました熊谷教会牧師の布村(ぬのむら)と申します。地区委員会に出席させて頂いて感じて感じたのは、非常に多岐にわたる仕事を地区委員会が行っているということ

です。そして、その一つ一つの地区にある教会のための奉仕の業であるということ。主イエスは弟子たちの足を洗われて、「ところで、主であり師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならぬ。わたしがあなた

がたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」(ヨハネ十三章十四・十五節)と仰いました。地区にある諸教会が、宣教や伝道を行う時のバックアップや奉仕を通して、主の栄光が顕されるために働きたいと願います。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

地区委員に再選されて

東大宮教会 山ノ下恭二



埼玉地区総会において地区委員に再選され、二年間、

地区委員として、その責任を担って行きたいと思ひます。伝道委員会委員長として、一人でも多くの人々にキリストの福音を伝えるためにどのようなことをしていけば良いのか、皆さんと一緒に力を合わせて行きたいと願っています。覚えてお祈り下さい。

基本姿勢

越谷教会 豊川 昭夫



三月十一日に起きた東日本大震災、それに続く原発事

故によつて、私達の生活は一変

した。多くの人の価値観も変わった。しかし、どのような時代の、どのような状況でも、私達の救いは、イエス・キリストの十字架と復活である。常にこのことを拠り所として、貴重な地区委員の奉仕にあたりたいと思ひます。地震発生後のアンケートで、欲しかったものの一位は水、二位は正確な情報であった。地区月報など主に情報に関わる奉仕に携わっています。常に正確な情報を発信出来るよう心がけて願っています。(妻が横からひと言)「今回は随分真面目に書いているわね。浦和レッズねたは、書かないの?」

微力ながら

岩槻教会 三井田忠昭



皆様から選出され、微力ながら地区委員の奉仕を継続することになりました。今年度は地区通信、会計補助、壮年部を担当することになりました。委員長の方針に従い、福音伝達の業に励みたいと思ひます。お祈り下さい。

新任教師紹介

北川伝道所 櫻井 義也
埼玉地区で



働いて既に二十五年目、「新任」などと紹介されると変な気持ちです。行田教会で十四年、所沢みくに教会で六年、教区巡回教師として四年、伝道者に召されて満五十年になりましたが、その半分を埼玉地区で働いたことになりました。この三月末で隠退、と考

えていたのですが、昨春秋、突然牧会の現場に戻りたくなくなり、神様の御導きで、北川伝道所の柳下仁先生が辞任される後任に、とお招きをいただいて、お受けした次第です。任期は「無期」、主から釈放されるまで、です。私の名づけ親、木村清松の伝記は「基督に捕われし清松」でした。ヨベルの年を終えて「新しい五十年」に向け、少しばかり基督に捕われた自分を感じています。連れ合いは北本教会に残して「単身赴任」です。北川伝道所は利根川左岸河畔の田園の真ん中にあり、会員十一人、礼拝のオルガニストを求めています。乞心募!

再び遣わされて

越生教会 西海満希子



この度、越生教会主任教師として就任いたしました西

海満希子です。埼玉地区では二年前まで十五年間お世話になっていましたので、もとの家に帰ってきた感じですが、越生教会での奉仕はまったくの一新からの出発です。

私は両親が長野県飯田市の在で、開拓伝道をしている中で育ちました。中学生の時、洗礼を受けました。高校を卒業し関西の大学で学んでいる時、学内のクリスチャンのグループに属してバイブルクラスに出席している中で、真の神の存在とイエス・キリストの十字架は私のためであったと心から信じる信仰に目が開かれ、私の生きる目的はキリストを伝えることだと示されて、伝道者への道を歩き始めました。東京の教会で夫と共に二十五年、埼玉の吉川教会で十五年伝道牧会をさせていただきました。夫は七年前、在職中に召されましたが、その後も引き続き奉仕させていただいています。越生教会での働きのためお祈りください。

第二の歩みを

東松山教会 塚本 洋子



四月から東松山教会の担任教師として着任しました。

二〇〇九年六月二十六日に神さまの被造物の内が一番大好きな夫、塚本信が御許に旅立ちました。神学生時代に結婚して以来お互いに人生のあらゆる面において同伴者でした。掛け替えのない存在を失い、嘆き

はこのどん底から救い出したのは、イエス・キリストの復活信仰でした。御子が初穂となられた復活は、人間の肉体の死の後もたらされる信仰者の復活の根拠、希望です。ようやく職務復帰を求めめるに至った昨年度末、主の御導きにより「東松山教会」と示されました。

赴任して

日野原記念上尾栄光教会



長橋 晴子
主の不思議なお導きにより、四月一日、

日野原記念上尾栄光教会に赴任致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

今年三月、神学校を卒業し、五月二十五日に関東教区総会場で、伝道師の准允を受け、また五月二十九日には、正田國磨呂牧師の司式のもと就任式をして頂きました。多くの先生方や信徒のご列席を頂き、また沢山の祝電などのお励ましを頂きました。心より感謝を申し上げます。

おめでとうございませう 第二種教会になりました

狭山教会 森 淑子

狭山伝道所は設立二十二二年目を迎え、昨年十月、念願の第二種教会になりました。

開拓の当初、会堂も牧師館もなく、十二名で始めました。第二種教会になるために、教員二十名になること、会堂を持つことを祈りの課題として努力を続けましたが、なかなか思うようにはいきませんでした。私は最初の八年間はキリスト教教育主事でしたから、多くの先生方に助けられたことを感謝の思いで思い起こします。一九九七年に献身し、二〇〇三年に西武新宿線新狭山駅近くに土地が見つかり購入。これからという時に教員が相次いで天に召されたり、また私自身も病気になるったり、先行きどうなるのだろうかと心配しましたが、三年後には会堂・牧師館を建てる事が出来ました。設立から二十一年目に、第二種教会になることができたのは、真に神の導きであり、神の御業に参与させていただいたことを感謝すると共に、みなさまのご加禱を心から感謝いたします。



埼玉地区総会報告

聖学院教会 東野 尚志

二〇一一年度の埼玉地区総会は、三月十一日の東日本大震災のため約一ヶ月延期され、四月二十九日(金・休日)、武蔵豊岡教会を会場として開催されました。

開会礼拝は、三月末まで越生教会主任牧師として奉仕された繪鳩アツエ教師を説教者にお迎えしました。出席者は開会時点で正議員一三三名のうち九十九名。議長は地区委員長の主橋誠牧師(飯能)が務められました。

教区問安使のひとりである飯塚拓也副議長からは、東日本大震災の被災状況について詳しくうかがい、地区委員長報告においても、通常の報告に加え、地区としての支援活動につ

いての報告が丁寧になされました。

以下、紙面に限りがあり、決議事項を簡単に記します。

地区委員長選挙

本選挙の結果、前任者の残り任期一年を務められた主橋誠牧師が過半数を獲得して、委員長に再選されました。

地区委員選挙(半数改選)

教師 中村眞(埼玉新生・再)、布村伸一(熊谷・新)、山下下恭二(東大宮・再)、信徒 豊川昭夫(越谷・新)、三井田忠昭(岩槻・再)

任期継続者は、教師 都築英夫(秩父)、東野尚志(聖学院)、山田称子(浦和別所)、信徒 長尾愛子(小川)、結城恭子(大宮)

二〇一一年度宣教活動計画

主題と聖句は、基本的には二〇一〇年度からさらに継続し、地区の交わりを深め、共に宣教の使命に生きることを確認しました。特に、被災地と教会の支援のために祈りと力を合わせていきます。

二〇一一年度地区会計

地区分担金を総額で約五百パーセント減額。

地区会計監査委員選出、地区総会議事録承認、次回地区総会会場及び日程の件は、地区委員会に付託されました。

壮年部定期総会報告

武蔵豊岡教会 島崎 光雄

壮年部総会は二月二十七日大宮教会を会場に、十五教会、三十二名が出席して行われました。開会礼拝は、木ノ内一雄牧師(川越)より説教「さあ、見に来てください。」(ヨハネ四章七〜四十二節)サマリヤの婦人の出来事を通して御言葉の恵みに与りました。

松下充孝委員長(大宮)より昨年度の総括と新年度の展望について報告があり、特に、教団の宣教状況、教会員の減少と高齢化、教勢の伸び悩み等について報告がありました。「これでいいのか?今の教会」と壮年部主催の諸集会を通して地区内教会・伝道所に呼びかけて二年が過ぎました。地域に根ざした教会の働きが祝福され

更なる成長に向かって教師と信徒が共にビジョンを求めて活動を続けることを確認しました。通常議案は全て承認可決され新年度の委員は全員再選留任しました。(壮年部書記

教会音楽講習会

埼玉新生教会 吉田みち子

「テゼ共同体の音楽I」その思想と背景」をテーマとして、五月二十八日(土)大宮教

会にて、今年度一回目の地区教会音楽講習会が開催されました。講師は江藤直純先生(日本ルーテル神学校校長)、他にサポートの学生七人。雨天にもかかわらず二十四教会から四十七人の参加者がありました。

前半は江藤先生から、テゼ共同体の歴史と現状、働きについて、またテゼの祈りと歌の特徴についてお話しいただきました。テゼ共同体とは、第二次世界大戦中ブラザー・ロジエによって設立された、キリスト者の和解と平和のために祈り働く超教派の修道会です。そこでは一日三回、共同の祈りの集いが開かれ、世界中から来た人々が参加しています。

祈りの場は、もてなしの心によって飾られたアイコンやローソクなどで整えられ、いくつかの歌と聖書朗読、続く沈黙と祈りによって構成されています。そこでは短いみ言葉を繰り返し歌います。歌詞はラテン語と各国語。ラテン語で歌うのは、世界的な教会一致の観点から、改めてキリスト者の共通語として用いられようになったものです。また、各国語が用いられるのは、それぞれの国の人に寄りそい、心をひとつにして歌うためです。テゼの歌は讚美歌

21にも多く収録されています。講習会の後半は実際にテゼの歌を用いての祈りの時を体験しました。ルーテル神学校の学生さんたちによる楽器と歌のリードで共に祈り、歌います。短い言葉をシンプルで美しいメロディーにのせて繰り返



返し賛美するうちに、会場は穏やかで暖かな雰囲気包まれ、多くの参加者が癒しと静かな感動を覚えたようでした。

その後、体験を通して感じた思いを分かち合い、また質問が多く寄せられ、参加者のみなさんの関心がさらに深まったようでした。

十月一日には実践を中心とした二回目の講習が決まっています。こちらもぜひご参加ください。(教会音楽委員)

▼婦人部研修会

福音を証する奉仕の業

志本教会 潮 純子

去る七月四日、大宮教会にて百三十人が集い、船戸良隆先生(大月新生教会牧師、アジア・キリスト教教育基金/ACEF理事長)のアジアにおけるキリスト者・婦人たちの果敢な挑戦と宣教の働きについてお聴きした。バングラデシユの貧しい農村における女性の地位向上のために人生を捧げたロキアさん。地域医療に携わり、予防医学と基礎教育の必要性から学校を開設したマラカール医師。

二人の働きを通して、アジアの女性が置かれている現状と彼女たちやACEFの働きによって変わりゆく農村の女性、子供達の姿を学んだ。絶望的で不毛な差別社会に、愛の業で切り込んだ彼女たちを突き動かしたものは、イエス・キリストとの出会いに他ならない事。キリストに繋がりに更に人・村・国・世界と繋がることで社会は変化する事。まさに開会礼拝での栗原牧師(武蔵豊岡)の説教「愛は繋がる事によって育てられる」である。

(地区婦人部委員)

▼地区教師研修会報告

和戸教会 三羽 善次

今年の研修会は「歴史のイエスと信仰のキリスト」との関わりを問い直す」という主題で七月十一日(十二日)に浦和別所会館で持たれました。講師は、関東学院大学教授、日本聖書神学校、東神大各講師の小河陽先生です。

副題に「今日、主イエスをどう宣べ伝えるか」としました。ように、伝道的視点を込めて研修会を計画しました。参加者は三十六名。これは例年の参加者数を大きく超えていましたが、この数に主題への関心の高さを感じました。

聖書の中に語られ伝えられている主イエスを今日の視点から新たに見つめ考えていく事を共に学びました。この学びが、講壇の説教の中に生かされ反映されていく事を願っています。

研修会は、地区教師の間の交わりの時でもありますが、新任教師の方が五名も参加くださったことも感謝します。

(教師委員会委員長)

▼地区壮年部講演会報告

「戦後最大の危機の中で」

―教団・教会・私たちは―

武蔵豊岡教会 島崎 光雄

三月十一日、未曾有の大災害をもたらした「東日本大震災」に急遽、修養会の予定を変更し、六月二十六日(日)埼玉新生教会を会場に、教団総会議長石橋秀雄牧師(越谷)を講師にお招きして「東日本大震災・特別講演会」を開催しました。開会礼拝は、地区委員長土橋誠牧師(飯能)より、説教「分かち合う喜び」IIコリント八章一―九節の御言葉を通して共に

主の恵みに与りました。礼拝席上献金は、被災地と被災地の教会を覚えて「教団東日本大震災救援募金」を通して献げました。

「被災地に、被災地の教会に、共に熱い祈りを!」諸教会が心を一つにして、祈りを献げる時を持ちたいと願い、地区委員会、婦人部、青年部に広く呼びかけて特別講演会を実施しました。

石橋先生は、「巨大地震と津波がもたらした大惨事と、二次災害としての福島第一原発事故は、言語に絶する悲惨に言葉が失っています。このような状況の中で、どう御言葉を語るのか、どう祈るのか、今後どういう説教をされますか、この状況の中で、それでもあなたは神を信じますか。」数々の問いかけの中で、今こそ信仰の覚醒が求められ、問われていると熱く語られました。

況の中で、どう御言葉を語るのか、どう祈るのか、今後どういう説教をされますか、この状況の中で、それでもあなたは神を信じますか。」数々の問いかけの中で、今こそ信仰の覚醒が求められ、問われていると熱く語られました。

一―二四六の祈り(一一日午後二時四十六分)を毎月の、この日、この時間を覚えて、全国の教会が共に熱い祈りを献げましょう、と呼びかけられ、被災地を覚えて祈り、閉会しました。出席 十五教会 三十八名 (壮年部書記)

▼役員伝道委員研修会報告

志本教会 佐久間文雄

今年度もテーマ「埼玉伝道の現状と幻」(パート四)として埼玉新生教会を会場に開催。参加者六十四名(二十教会)。

開会の挨拶と祈禱を山ノ下伝道委員会委員長が捧げ、発題一は、東海林昭雄牧師(埼玉大通り)から「諦めない伝道」と題してご自身の牧会経験から二つの事例を通して語られ、考えるべき点として三つの事を挙げられました。

①家族伝道等の伝道が信仰者の使命となっているか。家庭で一人ぼっちの出家信徒になっっていないか。②教会が自己中心性に陥ってしまい地域社会や現代の人々が負っている重荷を担っていないのか。③教会員自身が伝道の妨げとなっていないか。礼拝の民として呼び集められた者が、礼拝からの帰途には感謝と喜びに満たされ、他の人たちから羨ましく思われる程に満たされているか、と。

(伝道委員)

地区委員会報告

●二〇一〇年度第八回臨時委員

日時 四月五日(火)
会場 埼玉新生教会
出席 十名 欠席 一名

【主な報告・協議事項】

◆委員長報告

・教区副議長より日立教会援助の要請を受け、三月十三日(日)午後、三役で問安、献金と支援物資を届けた。

◆地区総会の日程変更に伴い、担当・議員登録変更等、準備の確認を行った。

◆教区常任常置委員会からの要請を受けて、被災地に送るための古着の収集と搬送について相談、決定した。

◆「京畿中部老会」からの訪問団歓迎は、先方の配慮により一年延期となった。

◆北本教会が、三月三十一日に出火、礼拝堂半壊状態となり、三役でお見舞いに行くこととした。

●二〇一一年度第一回委員会
日時 四月二十九日(金)
会場 武蔵豊岡教会
出席 十一名 陪席 五名

【主な協議事項】

◆地区総会補助書記(金田佐久

子、浅田美由紀)の陪席のもと、二〇一一年度地区総会諸報告の承認と決定事項の確認を行った。

◆地区委員の役割分担

委員長 土橋誠(飯能)

副委員長 中村眞(埼玉新生)

生)、書記 東野尚志(聖学院)、会計 結城恭子(大宮)、補助書記 豊川昭夫(越谷)、補助会計 三井田忠昭(岩槻)

【委員会・部会担当】

・伝道 山ノ下恭二(東大宮)、豊川昭夫

・教育 布村伸一(熊谷)、長尾愛子(小川)

・社会 土橋誠

・教師 山田称子(浦和別所)

・地区通信 三井田忠昭、中村眞

・ホームページ 中村眞、豊川昭夫

・修養会 都築英夫(秩父)、東野尚志

・災害対応 豊川昭夫

・壮年部 三井田忠昭

・婦人部 結城恭子

・青年部 布村伸一

・障教懇 長尾愛子

・教会音楽 長尾愛子

・埼玉連・同宗連(保留)

・川越少年刑務所教誨師

・山岡創「坂戸いずみ・委嘱」

・カルト問題

・白石多美出「春日部・委嘱」

●二〇一一年度第二回委員会

日時 五月十日(火)

会場 大宮教会

出席 十一名

【主な報告・協議事項】

◆委員長報告

・教師の辞任・就任

◆辞任 柿本俊子(三芳)、柳下仁(北川辺)、山野裕子(白岡)、木村勝則(日野原記念上尾栄光)、繪鳩アツエ(越生)、櫻井義也(北川辺)、長橋晴子(日野原記念上尾栄光)、西海満希子(越生)、塚本洋子(東松山)

・教会関係

東大宮教会(創立四十周年)安行教会(隣接地購入)就任式 長橋晴子主任担任教師(日野原記念上尾栄光) 五月二十九日 西海満希子主任担任教師(越生) 六月十二日 塚本洋子担任教師(東松山) 六月十二日(後日、七月十日に変更) 【消息】 山野裕子(久喜市で開拓伝道開始) ◆地区総会からの付託事項

地区会計監査選任 鈴木証一(シヤロンのばら)、佐久間文雄(志木) 地区総会議事録承認 次回地区総会会場・日程 二〇一二年三月二十日(火) 会場候補は大宮教会 ◆地区委員会主催集会 地区教会全体修養会は、予定通り八月に開催。被災地の教師を招くことを計画。 新年合同礼拝は、二〇一二年一月九日(月)、三区合同で開催。会場は聖学院教会を予定。 ◆今年度の地区委員会の日程と会場を決定。 ◆地区総合協議会は、二〇一二年二月十日(金)、大宮教会で開催。 ◆第六一回関東教区総会選考委員会推薦者を決定。 ◆部落解放関東教区キャラバンの受け入れにつき、特に七月三日(日)の礼拝と夜の交流会の計画を決定した。

訂正とお詫び 前号(三十九一三)号の「聖餐について理解を深めるためのパネルディスカッション」の「最上光宏牧師の要旨」の中で「洗礼は二次的なものに過ぎないし」をご本人の申出に基づき、削除いたします。 例年、年度最初の号は地区総会の報告で始まるのであるが、今年はこの総会の開催を一ヶ月延期せざるを得ない程大きな「東日本大震災」が発生した。埼玉地区もいち早く被災地の支援に駆けつけ、また祈りと献金を捧げた。これらの支援活動を三ページに渡って報告頂いた。 地震は「神戸・淡路」「中越」「中越沖」「能登」と矢継ぎ早に起き、支援対応にも多少経験が出来てきたかと思っただが、津波の威力にはただただ呆然とするばかりである。目の前で愛する家族や友人を波に連れ去られた記憶は、決して消え去るものではない。復興自体も十年単位の期間が必要だが、それ以上に被災者ひとりひとりに精神的な支えが必要である。メルトスルーした原子炉を永久に密封するための技術と費用についてはまだまだ何も分っていない。二百年間密閉できる材料がまだない中、チェルノブイリでは十万年間、管理が必要であるとされている。 私たちはいつまでも、被災された人たちのことを祈り、支援し、苦しみを分かち合っていきたい。 (三井田)

編集後記